

タイトル	複層林整備と消費者交流による木材価値づくり		
概要	<p>森林の複層林化を行うことによって山主の施業意欲を高めるとともに、多様な年代・径級の林相をつくることで循環する森林ができあがる。</p> <p>また、林道等の路網を整備することで、必要な時、必要な分だけ伐採・搬出することができるようになっており、注文材などへの対応を可能にすると共に、消費者や他業種との連携を深めることで木材価値を向上させている。</p>		
管理方法・技術的視点	<p>1) 複層林化による管理者の持続的なモチベーションの確保 100年、70年、40年、10年以下と30年ずつ年代をあけることで、世代を越えてかかわれる森作りを手掛ける。伐期を迎えた森林であっても皆伐せず、5～10年間隔で択伐し、空間が出来たら植林するなど、きめ細かな作業方法を実施。</p> <p>2) 資源活用と異分野・消費者との連携手法 木材活用の促進のため、消費者や異業種との連携を深めニーズをマッチングさせるために次の取り組みを実施している。①木材市場の運営、②買い手との交流と関係構築のための森林ツアーの実施。③異業種間の連携(森林組合、製材所、プレカット工場が連携したモデル住宅づくり)、④認証材と取引先の選定</p>		
備考	<p>当森林組合は、中津川市に編入された旧加子母村が管轄で、民有林5,627haを管理。73%が人工林、そのうち84%がヒノキ。</p> <p>生物多様性や環境保全に関連し、4,672haの森林でSGEC森林認証を取得。認証材を使う業者と取引をして木材価値を上昇させている。</p>	<p style="text-align: center;">2段林の植栽 (上層木80年生・下層木4年生)</p> 	
場所・主体	<p>岐阜県中津川市 加子母森林組合</p>		
URL等	<p>http://www.fa-kashimo.jp/</p>		